黙想:待降節第2主日 (C年)

黙想のテーマ:「私たちの希望の基は、神が人類史の由去の中ででは、神が人類史の古まりであることは、希望を持っている」「イエスに留まるからは、私たちを未来に向かれまり、私たちを未来に向ける」

私たちの希望の基は、神が人類史の中に入ってこられた事

過去を振り返ることは、希望を持つ 一方法

<u>イエスに留まることは、私たちを未</u> 来に向かわせる

しかし、ベツレヘムでのイエス・キリストの最初の降臨と、世の終わりの光栄に満ちた再臨との間に位置する、この期間の希望の典礼は、偶然に定められたのではありません。つまり、待降節は、過去と未来を同時に思い起こさせます。「私たちの希望の根拠は、歴史上の一つの出来事

にあると同時に歴史を凌駕する出来事にあります。それはナザレのイエスが成し遂げた出来事です」[2]。

今日のミサの福音で、聖ルカは、キ リストの先駆者、洗礼者聖ヨハネに ついて述べる時、歴史的な時を正確 に記しています。「皇帝ティベリウ スの治世の第15年、ポンティオ・ピ ラトがユダヤの総督、ヘロデがガリ ラヤの領主、その兄弟フィリポがイ トラヤとトラコン地方の領主、リサ ニアがアビレネの領主、アンナスと カイアファが大祭司であったとき、 神の言葉が荒れ野でザカリアの子ョ ハネに降った| (ルカ3・1-2)。歴 史の中のある時、馬小屋で生まれた 神の御子は、私たちを悪から救うお 方です。神は、私たちから遠い計り 知れない存在ではなく、また、私た ちの問題をあまり良く分からない方 でも、私たちと関わることのできな い方でもありません。創造主が歴史 の中に入り込まれたのです。これ が、私たちの希望の基です。

第二朗読で聖パウロが言います。

「わたしの神に感謝し(…)、あな たがたの中で善い業を始められた方 が、キリスト・イエスの日までに、 その業を成し遂げてくださると、わ たしは確信しています」(フィリピ 1.6)。神が私たちの中で始められ た「善い業」を、いつも私たちが理 解するとは限りません。単に注意散 漫だからかも知れないし、あるいは 自分の弱さに依るのかも知れませ ん。それで主が私たちの心に働きか けるのをお止めになるかと言うと、 逆に神は「打ち砕かれ悔いる心」

(詩編51·19)を、特別に愛おしまれるのです。聖パウロもこう言っています。「罪が増したところには、 恵みはなおいっそう満ちあふれまし た」($1-\sqrt{5\cdot20}$)。聖ホセマリアは、自分の弱さの経験に対し楽観的なものの見方をしていました。それが明白なものであればあるほど、私たちの内的生活のもっとも深く、固い礎とすることができると考えていたのです3

ですから、希望の徳は、相反すると 思える二つの態度で育成されます。 一方では、主が、私たちに与えよう と望んでおられる全ての事に対し て、力強く感謝し、詩編作者と共 に、喜びに満ちて歌います。「主よ わたしたちのために大きな業を成し 遂げてください、わたしたちは喜び 歌うでしょう | (詩編126・3)。私 たちの希望が、私たちに対する神の 大きな愛と、そのみ業に信頼したも のである限り、困難な時に私たちの 支えになります。しかし、希望は 又、自分の生い立ちを和解のまなざ しで振り返ることによっても強めら れます。「過去に対するわだかまり

を解かなければ、わたしたちは次の 一歩を踏み出すことの結果とる結果とる結果とる事ととる事に、とらわれたままになな事でもないません。のおいまれるの過ませてはありませんののませてはありませてはあり込ませてはないと、お出でもないまなるとができるでしょう。

古い図像集には、希望が錨の形で表 されています。多くの船舶で、錨は もっとも重く重要である事からし の対神徳の名を表すのに使いまし た。神に期待することは、嵐の時、 私たちの支えになります。しかし、 錨のイメージから、問題を解決する には、現状を肯定して、そこに留ま り続けることだと考えてはなりませ ん。イエス・キリストはすべてのことを新たにするために来られたのです(黙示録21·1参照)。ですから主に錨を下ろすとは、私たちが予想もできない大海原に漕ぎ出す心構えを持つということです。

「エルサレムよ、悲しみと不幸の衣 を脱ぎ、神から与えられる栄光で永 遠に飾れ」 (バルク5・1) 。私たち は、希望によって、自分の弱さを真 摯に受け止め、神が、日々お与えに なる種々の賜を頂く、柔軟な態度を 持つようになります。私たちは、自 分の人格や過去を否定することな く、少しずつ主イエス・キリストに 似た者になろうと望んでいます (ローマ13・14参照)。こうして、 イエスの降誕祭を単なる外的なお祭 りごとではなく、私たちの心に入る ため子供になることをお望みになっ た神とより親密に交わる機会にする ことができるでしょう。

- [1] 聖ヨハネ・パウロ二世、一般謁 見演説、2003年12月17日。
- [2] ベネディクト十六世、説教、 2007年12月1日。
- [3] 聖ホセマリア『道』712番「あなたは、ずいぶん深いところまで落ち

てしまった。そのどん底から基礎工事を始めなさい。 (…) 」参照。

[4] フランシスコ『父の心で』4番。

[<u>5</u>] 聖ホセマリア『神の朋友』206 番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-taikou-2nichi-c/ (2025/12/15)